

教育センターだより



南砺市教育センター



「 学び続ける姿 」

南砺市教育委員会 教育長 高田 勇

次期学習指導要領の告示が目前に迫った。今年度の学校訪問では、各学校が「主体的、対話的で深い学び」（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）の視点から授業改善に取り組んでいる様子が昨年度以上に強く感じ取れた。

「主体的な学び」については、既に長い間言われてきたことである。また、「対話的で深い学び」は耳慣れない言葉ではあるが、これも何らかの形で取り組まれてきた課題である。

今後は、それぞれの学びをより質の高い学びに変えるための授業改善が求められる。

話は変わるが、昨年、県民カレッジ叢書 108 号、内館牧子氏の「大相撲の文化史」が刊行された。大相撲に興味があったので一読した。相撲の宗教的儀式としての歴史と伝統や彼女自身のことについて興味深く書かれていた。特に彼女の学び続ける姿が印象的だった。

以下に内館牧子氏のことを中心に述べてみたい。

彼女は、1948 年生まれで作家でもあり脚本家でもある。小学校のときにいじめを受け、そのとき体の大きい人が守ってくれたので、体格のよい人ならば自分を守ってくれるのではという思いから、大相撲に興味をもつようになった。

彼女は相撲協会に「床山になりたい」と尋ねる等、大人になっても大相撲の興味を失っていなかった。拒否はされたが、「男だけ、なぜ・・・」という疑問は全く湧かなかった。

また、彼女は女性初の横綱審議委員会の委員として約 10 年務めた。

就任直後に、当時の大阪府の女性知事から、相撲協会に「土俵上で直接トロフィを渡した

い」という願いが出されたが、内館氏は異議を唱えた。一部世論には女性府知事に同調する意見もあったが反対した。

彼女は、相撲協会が相撲の起源を紀元後 642 年の健児相撲（「健児」とは兵隊の意味）としていたことを既に知っており、その上で反対したと思われる。

彼女は、相撲の歴史と伝統についてもっと詳しく学びたいと考え、横綱審議委員を務めながら、東北大学大学院文学研究科の試験を受けた。合格後は、作家や脚本家としての活動を一切中断し、仙台で 3 年間院生活に没頭した。大した根拠もなく「不公平だ」と声高に叫ぶ人々を何としても説き伏せたいという考えもあっただろうが、いずれにしろ並大抵の決断ではない。それに飽き足らず、神事との関係についても、近年國學院の専攻科に進み、更に研究を深めた。

彼女が、相撲について奥深く研究しようとしたきっかけは、先述のとおり小学校のときに抱いた相撲への憧れが原点にある。彼女の学び続ける姿は、次期学習指導要領の目指す姿と相通じる点がある。

日々の授業で、教師と子供の信頼関係なくしては、質の高い学びは成立しない。子供のふとした疑問、ひらめき、つぶやきなどを大切に拾っていく、さらには子供の興味あることや夢など全て肯定的に受け入れることにより、学ぼうとする意欲や探究心が大きく膨らむ。そんなことを考えながら叢書を読み終えた。



《調査研究委員会活動報告》 委員の先生方、ありがとうございました

小学校社会科資料委員会

【わたしたちの南砺市】



【わたしたちの南砺市地図】

小学校社会科資料委員会では、3、4年生向け社会科学習資料「わたしたちの南砺市」の改訂に取り組みました。

警察及び消防組織、ごみ処理事業については、各施設に問い合わせて確認し、南砺市、砺波広域圏の現状に即した内容に修正しました。さらに、JR城端線の「べるもんた」、「南砺市クリエイタープラザ」、「城端曳山行事」のユネスコ文化遺産登録等、地域に関わる新しい施設や事象についての記述を加えました。また、「南砺市地図」については、「わたしたちの南砺市」の内容との整合性を図り、主な施設、史跡の確認、追加、修正をし、印刷しました。どちらも4月初めに市内の小学3年生に配布します。

中学校社会科資料委員会



【身近な地域の学習—地理編—】

中学校社会科資料委員会では、中学校社会科学習資料「身近な地域の学習—地理編—」の改訂に取り組みました。

全ての生徒が活用しやすいようにユニバーサルデザインに配慮した内容になるように見直し、地名や難解な語句には、ふりがなを付けるなど修正を加えました。また、人口統計、積雪量、雨温図等、統計資料はできるだけ新しいものを掲載しました。完成した「身近な地域の学習—地理編—」は、4月初めに配布します。

デジタル教材作成委員会



【デジタル教材「南砺の文化財」紹介パンフレット】

デジタル教材作成委員会では、文化・世界遺産課より提供していただいたデジタル版「郷土の文化財」を、小・中学校で活用できるように、2年計画で委員の先生方にデータを整理したりまとめたりしていただきました。今年度は、データを地区別に分けたり、主な文化財についての資料をまとめたりして、小・中学校で活用しやすいように配慮し作成しました。11月に共有サーバにアップするとともに、12月にはDVDにまとめて各校に配付しました。総合的な学習の時間や社会科の授業等でご活用ください。



学習内容系統図作成委員会

【外国語活動・英語科学習内容系統図】

学習内容系統図作成委員会では、外国語活動・英語科の学習内容系統図を作成しました。

学習内容の連続性を意識して指導ができるよう、情報交換と協議を行いました。中1の学習内容を中心に据え、中1の学習に関わるものが、小学校の外国語活動では、どの学年でどのように行われるか、また、中1で学習したことが中2・中3でどのように発展していくのか系統性が分かるように作成しました。完成した系統図は、ラミネートをし、11月に各学校に配布済みですのでご活用ください。

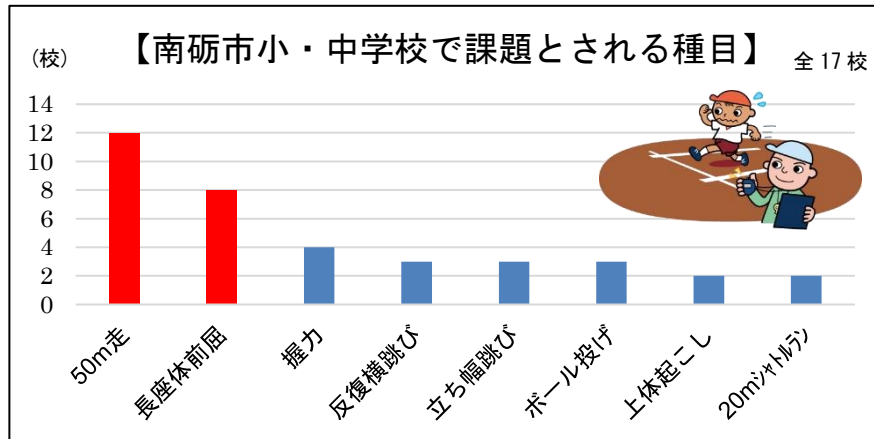
平成29年度は社会科の学習内容系統図を作成する予定です。



体力づくり委員会

昨年度より『体力づくり委員会』は3カ年計画で進めています。2年目となる今年度は、小・中学校で連携した取組を進めるめとともに、各校の取組について中間報告書を提出いただきました。3年目となる次年度も、1・2年目に明らかになった校区の子供たちの課題を解決する取組を、小・中連携しながら進めていくこととなります。児童生徒の体力・運動能力を高めるためには、継続的に取り組むことが大切です。また、家庭や地域との連携や共通理解が必要です。全校、校区をあげての取組と家庭や地域への発信・啓蒙をよろしくをお願いします。

各校から提出いただいた中間報告書より、体力・運動能力調査の傾向と取組の様子について一部抜粋して紹介します。



各校より「本校の課題及び小・中共通した課題」として多くあげられていたのは、50m走と長座体前屈です。「走力」と「柔軟性」を高めることが必要であるとの回答が多くありました。

【小・中の連携（報告書より）】 ○：H28年度実施 ●：H29年度実施予定

- 冬場の体力づくりとして小学生用と中学生用の縄跳びカードを作り、体育の時間や業間に取り組んだ。難易度は異なるが、記録の仕方は共通なので抵抗なく使用できた。
- 連合運動会の練習時期に、中学校の体育科（陸上部顧問の）教員に専門的な指導をしてもらったおかげで、6年生の技術の向上が見られた。
- 中学駅伝の朝練習に6年生も参加し、ペース走や1000m走の練習を一緒に行った。
- 例年5月に行われる「南砺市連合運動会」に向けて中学校体育科の先生方に指導していただく機会を設け、児童が競技の特性や楽しさを味わえるようにポイントを絞った指導を行う予定である。
- 小・中学校の互見授業の際に、体力づくりに対する話合いを行った。運動に親しめる環境をつくるということで共通理解した。
- 小・中合同研修会で体力づくりについて話し合った。前年度から課題であった走力・持久力の底上げを目指すことを共通理解し、持久走練習等に用いるカードをそろえて取り組むことを決めた。
- 小・中学校とも、柔軟性を強化するために、全校体制で、体育科の授業や業間運動等で、準備運動の他に柔軟体操を取り入れている。また、空いている時間に、柔軟運動を行うことで、日常的に体を柔らかくする場面を取り入れていく予定である。



《視聴覚教材や書籍等、どんどんご利用ください！》

- ★ 砺波視聴覚教育協議会は、南砺市と砺波市の共同出資で運営されています。これまで、南砺市の利用は、貸し出し総数の4割を超えることはなかったのですが、おかげさまで今年度は半分を上回る利用がありました。「ネットトラブルに関するもの」や「安全教育・防災教育に関するもの」等充実してきています。どんどんご利用ください。
- ★ 特別支援教育に関する書籍や外国語活動で活用できる教材等の案内を添付いたしました。昨年10月に配付しました黄緑色の表紙の『砺波視聴覚協議会DVD一覧ファイル』に追加保管していただきご利用ください。借用の申込みは、添付のFAX用紙をご利用ください。



ご利用に際して不明な点は教育センターにお問い合わせください。



《NYT（南砺市若手教師）道場の活動》より

今年度も、南砺市内小・中学校採用6年目までの若手教師によるNYT道場が行われました。平成25年に発足して4年が経ちました。今年度は、「学校の枠を超えた仲間をつくる」「自主活動を通して、ともに学び、高め合う」を目標に、それぞれの活動の企画・準備・運営を、採用年次（経験年数）に関係なく縦割りグループで行いましたが、スムーズにそしてチームワークよく進められていました。どの回も、参加された先生方の『積極的・意欲的な姿』と『笑顔』が印象的でした。今年度の活動内容を紹介します。



第1回 定例会&組織づくり 7月1日(金)

内容：組織づくり、係分担、今後の活動企画
会場：井波社会福祉センター 参加者：33名



第2回 パーベキュー 7月28日(木)

会場：イオックスヴァルト 参加者：26名



予定されていた「星空ウォッチング」は雨天のため中止となり残念でしたが、パーベキューを楽しみながら親睦を深めることができました。

第3回 楽しい合唱指導 8月9日(火)

講師：井口中学校 教頭 今井 幸代 先生
会場：吉江中学校 参加者：29名



合唱コンクール前の実施であり、今後の指導に直接生かせる内容でした。「参加してよかった」「有意義だった」という声がたくさん聞かれました。

第4回 『I'm OK, You're OK』の関係づくり 9月30日(金)

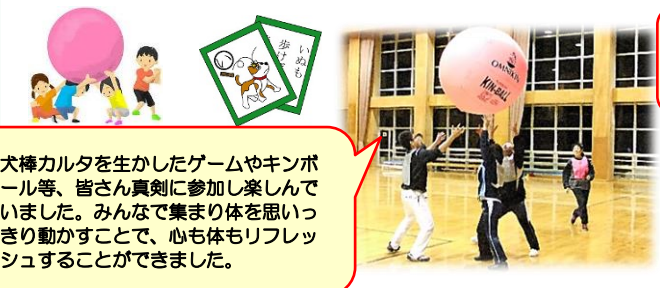
講師：スクールソーシャルワーカー 菊地 章子 先生
会場：井波社会福祉センター 参加者：32名



グループワークを通して、相手の言葉や意見を聞くことの大切さを体感することができました。演習がたくさん盛り込まれ、親交を深めることができました。

第5回 NYTスポーツ大会 11月26日(土)

内容 体を使ったレクリエーション大運動会
会場：福光中部小学校体育館 参加者：20名



犬棒カルタを生かしたゲームやキンボール等、皆さん真剣に参加楽しんでいました。みんなで集まり体を思いっきり動かすことで、心も体もリフレッシュすることができました。

第6回 最終研修会 1月30日(月)

内容 教育長講話、今年度の報告、次年度に向けて
会場：井波総合文化センター 参加者：27名



「当たり前のことが当たり前でできる子供を育ててください。子供たちの小さな驚きや発見を大切に「学び続ける芽」を育ててください。」

終わりに

今年度、教育センター主催で二つのICT活用研修を行うとともに、市内の学校でICTを活用した授業を見せていただきました。その中で、協働的に学び合うためのICT活用の有効性について実感することができました。また、ネットトラブル対応に関する研修会に参加して、ネットトラブルはどこにでも起こりうることを痛感しました。「スマホの問題は使う側の心の問題」「今必要なのは、子供たちがリアル（現実の社会生活）の中でコミュニケーションの力を身に付けること」という講師の言葉が心に残っています。コンピュータが生活の中に入り込んでいる現代だからこそ、「人と関わる力」を育てることは、学校教育においても今後ますます重要になっていくのではないかと感じます。

さて、平成28年度も終わろうとしています。本年度も市教育センターの諸活動にご理解とご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。次年度の事業にもご協力いただきますようお願いいたします。（記 杉下）

